

## レストラン「コスモス」がオープン



YMCA 2階のレストランが「コスモス」という名前で11月にリニューアルオープンしました。

ホテル宿泊客用の朝食(200円)は今までとおり韓・洋食からメニューを選べます。

11:00～14:00までのランチメニューにはカルビやスンドゥブといった韓国の定番定食をはじめ、石焼ビビンバ、冷麺などがあり、特に廉価のおすすめランチとしてカレーライスやキムチチャーハン、チャプチュベ、石豚丼などが日替わりで登場します。ご飯のおかわりと食後の各種お茶類が無料なのは嬉しいサービス。

お手頃な価格で本格的な韓国料理を楽しめるディナーももちろんおすすめです。忘年会や新年会の会場としてのご利用はいかがでしょう。

●「コスモス」 電話番号：03-5259-0112

## 東日本大震災救援・復興募金継続実施中

### 募金の送り先

窓口持参または郵便振替で下記にご送金ください。  
(「東日本大震災募金」とご記入下さい)。

00190-4-539049 在日本韓国 YMCA

## 2013年11月までのその他の活動

### 関東大震災 90 周年記念 追悼合同早天礼拝

9月2日朝、毎年恒例の関東大震災追悼合同早天礼拝が東京YMCA、東京聖市化運動本部との共催で本会9階ホールを会場として行われ、孫裕久牧師(日本キリスト教団川崎戸手教会)より「神の和解に参与する」と題したメッセージをうかがいました。この韓日キリスト者合同による追悼礼拝は震災翌年に開催された追悼集会、追悼礼拝に起源をもち、毎年開催されていますが、90周年の節目となった今年は残念ながら日本国内各地の街頭におけるヘイトスピーチが問題視される中での開催となりました。



かつての惨劇をあらためて深く心に刻み、過ちを決して繰り返してはならないという思いを一同が強く再確認するときとなりました。

## 東日本大震災被災地支援街頭募金

東日本大震災発生からちょうど2年半、30ヶ月目を迎えた9月11日、「東日本大震災被災地支援街頭募金」をJR水道橋駅東口周辺で昼と夜の2回実施しました。

昼は、日本語学校の学生たちが街頭に立ちました。はじめは募金呼びかけの日本語もたどしく小さな声しか出ませんでした。時間が経つにつれ、はっきりとした大きな声が響くようになりました。学生たちからは「大きな金額を募金してくれる人がいて驚いた」、「はじめは恥ずかしかったが、だんだん大きな声が出るようになった」、「お金を入れてくれなくても、震災を忘れてしまった人たちに思い出してもらおうができたと思う」といった感想が聞かれました。



夜は、YMCA会員とスタッフ、東京センテナルYサービスクラブ(ワイズメンズクラブ)の皆さんが、東京ドームヘナイター観戦に出かける方などに募金を呼びかけました。

## 東日本大震災の被災地支援を目的として「YMCA東日本大震災救援・復興募金」を引き続き受け付けております。

## 今後の予定 2013年12月～2014年2月

### 【在日本韓国YMCA】

- 12/8(土) 2・8独立宣言第95周年記念式
- 12/8(土) 第2回理事会

### 【東京韓国YMCA】

- 12/8(日) YMCAクリスマスのタベ
- 12/20(金) 日本語学校クリスマス祝会
- 12/21(土) 子どもクリスマス
- 1/13(祝)～28(火) 日本語学校「冬の東京体験」
- 1/20(月) 第231回教界指導者朝餐祈祷会
- 2/8(土) 第3回理事会

### 【関西韓国YMCA】

- 12/7(土) 会員クリスマス
- 12/14(土) 第3回 四季を彩る韓国料理「牛肉ときのこのチョンゴルとゆず茶」
- 12/14(土) 第42回生野区民クリスマス(生野地域活動協議会)
- 12/18(水) 日本語サロン(日本語教室クリスマス会)
- 1/10(金) 第112回教界指導者早天祈祷会
- 1/18(土) 第4回理事会
- 2/5(水) 2・8独立宣言95周年記念礼拝



## YMCA 東京日本語学校学生募集中

### 【編集後記】

- 今年の合同祈禱会の山口里子さんのお話からは、これからもYMCAで働き続けるために必要な勇気と力を大いにいただきました。皆さんはいかがでしたか。(た)
- 徒歩での出勤途中、紅葉と落ち葉で満ちた都心の秋の風景に、足を止めて少し季節を味わった今朝でした。(朴)
- なかなか激動の2ヶ月。祈りの重要性を再確認しました。(才)
- わたしもなかなか激動のこの2ヶ月。そして次の2ヶ月もたぶん。(白)
- 先日1歳の甥っ子の前髪を切りました。予想以上に可愛く切れたので自己満足に浸っています。(U)

### KAKEHASHI かけはし 2013 Dec. vol.13

発行人：金秀男 発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5  
TEL：03-3233-0611 FAX：03-3233-0633  
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/  
ayc@ymcajapan.org



『かけはし』次号は2014年3月発行予定です。

Twitter: @zainichiymca Facebook: Korean YMCA in Japan  
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

在日本韓国YMCA  
アジア青少年センター  
Korean YMCA in Japan  
Asia Youth Center

かけはし

## 希望が生き続けるということ ～パレスチナ・オリーブ収穫プログラム報告～

森小百合(日本YMCA同盟学生YMCA専従スタッフ)



オリーブ収穫で、現地の子どもと語り合う

このプログラムは、1948年以降60年以上にわたるイスラエルの軍事占領下で、土地や資源を奪われ400万人を超える人々が難民となったパレスチナの現状を多くの人たちに伝え、正義と平和の実現のために連帯するため、オリーブの木キャンペーンの一環として毎年行われています。

今年はイギリス、ドイツ、スウェーデン等ヨーロッパ各国やアメリカからおおよそ130名が参加し、日本から2名が参加しました。20～80代と世代も幅広く、YMCAやYWCAはもちろん、キリスト教教会や各国のパレスチナ支援団体に所属している等、多様な背景を持つ人たちと、オリーブ収穫とパレスチナの現状を学ぶ10日間を過ごしました。

## 聖書に聴く 第13回

鄭守煥 牧師(チョン・スファン/在日大韓基督教会折尾教会)

「主の愛とその喜び」(ルカ1:46-55)

私たちが心の奥底で何かを期待し、何かを待つときに大きな支えとなることがある。ある人はそれを希望といい、ある人はそれを夢という。そんな夢や希望をいつまでも持ち続けたいものである。ただ個人の努力で、夢や希望がかなえられることもあれば、一個人の努力や能力ではなかなか達し得ないこともある。例えば社会的に不安定の中では、平和や平安をどれだけの人々が望んでいてもそれをかなえることのできる政治や社会環境が整わなければ世の中に平和や平安はなかなか訪れることはない。もちろんこれだけにとどまることではない。一人ひとりの平和や平安には、大きな隔たりや違いがある。一部の人だけにとっての平和や平安であっては意味がない。

ヘブル語の「シャローム」には、「平和」「平安」という意味がある。ハンゲルでいうところの「アンニョンハセヨ」にあたる。「どうぞ、平安・平和でありますように」といった意味である。この「シャローム」というあいさつの言葉の語源には、完全な平和・平安であること。また何一つ欠けたことのない状態、満たされた状態であることを指し示している。マリアが天使からイエスという男の子を産むことを告知された時は、彼女自身どれだけ不安と驚きがあったことだろう。マリアは心を騒がし(乱され、困惑し)ていたと聖書にはある(1:29)。彼女の心は平安どころの話ではなかったのである。なぜなら彼女は、自分のように取るに足りない少女(当時の結婚年齢は男性で14～15歳、女性で12～14歳)である自分が、突然

私たちは、午前中ベツレヘム近郊のオリーブ畑で、パレスチナ農民たちとともにオリーブの実を収穫し、午後は難民キャンプやアパートヘイト壁を訪れ、人と人/土地と人が引き裂かれる暴力に晒され生きる人たちの暮らしを目の当たりにし、その暴力に抗い自由と平和のために活動する人や団体を訪問しました。

私がパレスチナを思うとき、真っ先に脳裏に浮かぶのは、オリーブ畑でみんなと収穫しているときの風景です。オリーブの木には、たくさんの枝と葉があり、枝の先端や付け根の部分になった実は、1本の木から数えきれないほど採れます。木の下にブルーシートを敷き、木や脚立に登って素手で実を採り下に落としたり、落ちた実をバケツに集めたり、互いに協力し合い収穫作業を行い、どこまでも続く広い空と熱い太陽の日差しの下で、私たちは各国の歌やパレスチナの歌を歌いながら、穏やかで豊かな収穫のときを共有しました。



オリーブ収穫の風景

【2面へ続く】

神から言葉をもらい、この世の救い主の母親となるということを受けとめることができず戸惑い、直ぐにその言葉を信じることができなかったことだろう。しかしマリアの心は、神によって遣わされた天使の言葉によって徐々に平安が与えられる。自分には何もできない、またその力はない。けれども神にはその力と能力があり、神が自分にそのことを通して、神の大いなる喜びを与えてくれるのであれば、どれだけ幸いなことか。それが親族のエリサベツと会って言葉を交わしたマリアの口から言い表されるのである。「わたしの魂は主をあがめ、／わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしめにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう」。神は小さな存在である自分に目を留めてくれている。驚きと不安の中にある自分に平安を与えてくれていることの喜びを感じるのである。それは遠い未来にではなく、今自分をとおして多くの人々に平安を与えるために、神は独り子をこの世に与えてくれる。それは神の愛がなす業であり、決して見失うことなく、また消えることのない喜び、希望なのである。この喜びはマリア一人の喜びではなく、全ての人々にとっての大きな喜びとなる。これほどの神の愛と喜びはない。

私たち人間は満足に自分たちが引き起こしている悲惨な現状を解決できないでいる。だがその状況から抜け出す道がある。自らが悲惨な状態にある人間であることに気づき、神の憐れみによりすがり生きる時、神は私たちにイエス・キリストを通して平安をくださる。



【1面から続く】

その一方、何気ない会話や生活の中で、アパートヘイト壁や無数の検問所での嫌がらせや差別、土地や家や移動する自由を奪われたパレスチナの人々の生き様を見聞きし、穏やかであるはずの生活が、イスラエル兵やユダヤ人入植者たちからの暴力と抑圧によって破壊され奪われ続けていることを突き付けられました。こうした現実の中で「私たちにとってオリーブは希望の象徴です。あなたたちはその希望が生き続けていることを、世界の人々に伝えてください」と



オリーブ収穫の風景

語ったパレスチナ人の言葉が忘れられません。

パレスチナ人にとっての希望であるオリーブの実。私には木の上でこの手がつかんだ実が、あの場所で出会ったパレスチナの人々自身のように思えます。彼/彼女らこそ、暴力に抗い平和を求めて生きるこの世界の希望そのもの。その希望に出会った私は、私の家族や友人たちやYMCAにつながる人たちに、パ

レスチナが置かれているこの現状を伝え、自分自身の生き方を問い変えていくことで、小さな希望を社会・世界の大きな変化へとつなげていく。生き続ける希望に連帯し、私自身がその希望となるために、これからもYMCAでの働きに努めていきたいと思います。



アパートヘイト壁とオリーブ畑の様子

## 連載 東京の中の韓国を巡る【第5回～高麗(こま)後編～】 オ門勇介(「かけはし」編集委員)

「東京の韓国を巡る」第5回は埼玉県日高市の高麗(こま)駅を中心とした、高麗の郷を巡るレポート後編です。



巾着田を抜けると見えてくる「高麗郷古民家」

駅の近隣のマップの「高麗駅～巾着田～高麗郷古民家～聖天院勝楽寺～高麗神社」というおすすめルートを回ってみました。

ぶらぶら歩くと不思議な名前「巾着田」という紹介文字が現れました。日高市内を流

れる清流、高麗川(こまがわ)の蛇行に合わせて作られた平地で、直径が約500メートル、面積約22ヘクタールにも及ぶ場所です。とても地味な田んぼのような場所で、なぜ有名なのかと思いましたが、訪ねた時期が悪かっただけのようです。時期によっては、菜の花、コスモスが一面に咲き、中でも曼珠沙華群生地は秋頃には辺り一面が真っ赤に染まりとても幻想的とのこと。残念・・・(取材したのは8月末)。

その巾着田を最後まで歩くと塀に囲まれた立派な建物が現れます。それが「高麗郷古民家」です。入口まで向かうとこれまた時期が悪く閉まっていた・・・後日「9月1日、高麗郡古民家一般公開記念式典が開催され、高麗郷古民家(旧新井家住宅)の一般公開を開始しました」だそうです(笑)。

気持ちを切り替え、気持ちのいい田舎道を進みます。



「高麗家住宅」

しばらくすると左手にまた「將軍標」がお出迎え、「聖天院」です。ここもまた補修中で門にカバーが・・・見学もそこそこのよいよ「高麗神社」に向かいます。またまた、「將軍標」がお出迎えです。こちらは少しファニーな面持ちです

「高麗神社」は高麗郡を統治した高麗王若光を祀っている神社ですが、近代以降は「出世明神」と呼ばれているそうです。鳩山一郎を始めとする著名な政治家が参拝し、その後首相になったことから出世開運の神として信仰されるようになったそうで、境内にはたくさん政治家からの献木が。その一つ一つの名前を見ていけば、どれだけこの場所が重要視されていたかがわかります。特に韓国からの献木はまさに日本の地における韓国の祖というにふさわしい顔ぶれです。私はクリスチャンであるので神社仏閣に興味はありませんが、単に歴史としてみても、なお興味深いものでありました。

その後、高麗神社奥にある「高麗家住宅」を見学です。高麗神社に代々勤めてきた高麗氏の住宅だそうで、建築様式や構造手法からおおよそ17世紀後半頃と考えられています。その当時の生活様式が再現された形で展示されており、その時代の空気感のようなモノを体験できます。

これで一通りの「高麗」ツアーは終わりです。最初駅を見た時に感じた不安をよそに、日本における韓国の歴史を感じることができた小旅行でした。是非皆さんも一度足を運んでみてはどうでしょう。できれば曼珠沙華が満開の時期に。



「高麗神社」のちょっとファニーな將軍標



鳩山一郎元総理の献木

## 2013年9月～11月のプログラム

### 東京韓国YMCAの活動

#### Y・와이(わい)フェスティバル2013YMCAバザー

11月16日、恒例のY・와이(わい)フェスティバル・YMCAバザーが、一昨年と昨年の悪天候とは打って変わった最高の秋晴れの下で行われました。

掘り出し市、古着市、古本市は毎年楽しみにしてくださる近所の方々が今年も開店前から列を作って待ってくださいました。韓国食品市は会員の皆さんのご協力により、例年以上に多くの献品が集まり、売り上げも伸びました。

日本語学校の学生による屋台は、韓国(トッポッキ)、台湾(魯肉飯)という毎年おなじみの顔ぶれのほか、今年はベトナム(揚げ春巻き)、スリランカ(スリランカチャーハン)、スペイン(オムレツ)のメニューが初登場し、いずれもとても美味しく大好評でした。



「まめぶ」は好評でした

またセンテナアルワイズによる恒例の韓国チヂミ屋台の横には、昨年に続き東日本大震災復興支援コーナーが設けられ、岩手県宮古市から仕入れた特産品販売のほか、今年はドラマ「あまちゃん」で人気を呼んだ「まめぶ」もふるまわれました。初めて食べる人がほとんどでしたが、皆さんに大いに喜んでいただけました。

2階喫茶コーナーの美味しいケーキは人気を集め、全種類完売しました。

イベントコーナーでは恒例のカヤグム教室受講生によるカヤグム演奏、チャング教室講師・受講生によるサムルノリ演奏のほか、今年は日本語学校初級クラスの学生による歌の発表もあり、大いに盛り上がりしました。

みんなが大いに楽しんだこの日のバザーの収益は、東日本大震災被災地復興支援募金、多文化共生を目指す諸団体への献金、YMCA東京日本語学校留学生奨学金として役立てさせていただきます。

#### YMCA/YWCA合同祈禱会



11月14日、本会9階ホールにおいて今年度の東京におけるYMCA/YWCA合同祈禱会が開催されました。今年は「神の求める『変革』となる」というテーマの下、山口里子さん(恵泉女学園大学他講師)より「世界をどう変えたい? 私はどう変わりたい? どうやって?」と題するメッセージをうかがいました。YMCA/YWCAが正義と平和の実現を目指して働くためには、まず私たち一人ひとりの「変革」が求められているということ、そして単純ではない世界の暴力のシステムに絡めとられてしまうことのないようにほんとうの意味での賢い知恵をもたなくてはいけないということ、聖書学の新しい成果に基づく「十人のおとめたち」の話の解釈を通して、力強く説き明かしていただきました。

礼拝に続いて行われた懇親会は、団体の枠を超えた実り豊かな情報交換と交流の時間となりました。

### 関西韓国YMCAの活動

#### 韓国料理教室 秋夕(チュソク)の料理



華陽炙



松餅

今年度から始まった韓国料理教室では講師の高杏子(コウ・ヘンジャ)先生から、季節や暦に合わせて伝統的な料理と食文化を学びます。旧暦8月15日の秋夕を前にした今回9月14日は華陽炙(ファヤンヂョク)と松餅(ソンピョン)を作りました。まず韓国料理の特徴である五味(辛・甘・酸・鹹・苦)五色(青・赤・黄・白・黒)五法(煮・焼・蒸・炒・生)のお話から始まり、秋夕の行事と料理について説明を受けた後、調理にとりかかりました。

先生の指導の下、初対面の人々も楽しく話しながら手を動かします。たくさん松餅を包むという作業も苦になりません。いくつかは飾りもつけて、かわいらしい5色の松餅が蒸し上がりました。華陽炙は先生のアレンジで、スーパで簡単に購入でき、作るのも手間のかからない材料を選んで5色を揃えたものです。串に刺して大皿の上に並べると美しく華やかで食べるのが惜しいような気持ちになります。

あまり家で作ることのない手の込んだ料理をこうして集まって作り、美味しく楽しんでいたかきながら交流し、韓国の伝統文化も学んで、と、参加者全員が充実した半日を過ごしました。

小林利子(こばやし・としこ)

#### つながりスポーツ大会開催



生野地域活動協議会主催の「つながりスポーツ大会」が東大阪朝鮮中級学校で11月19日に開かれました。朝鮮学校の先生が例年よりたくさん参加されたこともあり、おとな子ども合わせて参加者は36名となりました。予定していたソフトボールはあいにくの雨で屋内での卓球大会に変更されました。試合はペアのトーナメント形式でこない、思っていた以上に熱い戦いが繰り広げられました。



試合後は廊下にブルーシートを敷き焼肉交流会となり、肉や野菜をたっぶりいただきました。それぞれが自己紹介と活動の紹介をしながら、同じ七輪を囲んで話はずみでした。

卓球の表彰式は朝鮮学校が用意してくれた景品のおかげで賑やかになり、ゲームも盛り上がりしました。ソフトボールができなかったのは少し残念でしたが、地域のつながりと交流によって充実した時間となりました。

金弘明(キム・ホンミョン)